

紙版 ハコブネ×ブックス vol.50

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



晴れ、時々くらげを呼ぶ

作 者 鯨井あめ
出版社 講談社
発 行 2020年6月
ISBN 978-4065194744

review



特集

いつか図書室で

高校二年生の男子、亨（とおる）は図書委員として放課後の図書室に常駐していますが、特に仕事はありません。亨の通う県内有数の進学校の生徒たちにとって、図書室は自習スペースであり、本を読むための場所ではないのです。この状況を憂慮した図書委員の一人が、貸出数を増やすための企画を立てたいと提案します。お薦め本のPOPを作り、生徒玄関に貼るという企画が実現しますが、本好きの後輩が、寡作の小説家、七尾虹の作品を紹介したいと言いつつ出したことで亨は慌てます。七尾虹は亨の父親であり、その存在に亨は否定的でした。なぜか屋上で空からくらげを呼ぶことに執心する生徒など、理由と行動が整合しないアンビバレントな高校生たちの複雑な心性と、読書を素直に楽しめるメンタルが交差する不思議な物語に、思春期の自我が映し出されていきます。



読書嫌いのための図書室案内

作 者 青谷真未
出版社 早川書房
発 行 2020年4月
ISBN 978-4150314286

review



部活動が委員会活動を行うことが必須となっている高校で、昨年、美術部を退部した二年生の男子、浩二（こうじ）は、しかたなく図書委員になります。ただ、本を読むことが苦手な浩二は、図書委員会に集まった生徒たちの中では異端的存在です。そこを司書の河合先生に目を付けられて、同じクラスの図書委員の女子、藤生（ふじお）とともに図書新聞作りの担当に選ばれます。読書好きの藤生と一緒に新聞の内容を考える浩二は、生徒や先生に読者感想文を書いてもらうことで本を紹介しようと考えます。感想文を依頼した同級生や先輩、先生が選んできた本には、それぞれの理由がありました。そこから仄めかされるミステリアスな事件。深く作品を考察する藤生から講釈を受けながら、浩二は、物語の面白さと、その感想を言葉にしようとする人たちの内面に触れていきます。



本と鍵の季節

米澤穂信
集英社 2018年12月

図書室（学校図書）を舞台にした物語に、読書好きの中高生は親近感を抱くものでしょう。『本と鍵の季節』（米澤穂信）では、高校の図書委員の本の分類知識が事件の謎を解く鍵になっていたり、図書室という場所ならではのロマン、中高生が本を読む意味にフォーカスした作品など、様々な図書室の物語があります。時に図書室は楽園であったり、学校のハグレ者たちの避難所であったり、ただの学習スペースの場合もあります。それでもどこか期待を抱いてしまうのが図書室マジックです。いつか図書室で。そこで何かが待っています。

図書室のはこぶね

作 者 名取佐和子
出版社 実業之日本社
発 行 2022年3月
ISBN 978-4408537993

review



一週間後の体育祭に向けて学校内が盛り上がりつつある中、怪我をして体育祭に参加できない高校三年生の女子、花音（かのん）は、準備に忙しい同級生の代わりに図書委員の仕事を引き受けることになりました。他の図書委員に教わりながら仕事を伝つていたところ、返却処理をしようとしたゲストナーの『飛ぶ教室』が既に書棚にあることに花音は気づきます。登録は一冊しかなく、復本ではない。本に挟まれた意味不明なメモ。十一年前にこの本を借り出した生徒が在校時に事故で亡くなっていることや図書室の検索機に遺されたメッセージなど、ヒントをつないで花音はこの謎をひも解いていきます。『飛ぶ教室』に託された、かつての高校生たちの理想と願い。大人たちに見守られながら、考え方の対立を越えて、正しさと優しさが追求されていく物語。巻末の図書案内も嬉しい一冊です。

教室に並んだ背表紙

作 者 相沢沙弥
出版社 集英社
発 行 2020年12月
ISBN 978-4087716948

review



中学二年生の図書委員の女子、佐竹は、昼休みの図書室で、一年生の時に一緒にクラスだった女子、三崎を見かけます。陽気な明るい声が大きく、自分のような地味な子とは違う世界に住んでいるはずの三崎が、場違いな図書室に毎日通い一人きりでいることに佐竹は驚き、やがて彼女がクラスでいじめられ、教室で居場所を失っている事情を知ることになります。物語は、それぞれ悩みを抱えた中学生女子たちを主人公にした連作短編形式で展開します。苦悶する彼女たちに、図書室の司書の、しおり先生は、本や物語を読むことになぞらえてアドバイスを贈ります。「おかしくなっている教室」を、子どもたちはどう生き延びればいいのか。教室に並んだ背表紙。教室という窮屈な書架にいる「自分」という本を誰かに読んでもらいたい。そんな少女たちの切実な願いを訴えかける物語です。



ぼくは落ち着きがない
(長嶋有)
光文社 2008年



お問合せはこちらから。

特集

いつか図書室で



紙版「ハコブネ×ブックス」vol.50

2025年11月1日発行 ●発行人 きむらとおも

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。